

令和4年度 8月夏季研修

8月に行った夏季研修の報告です。今年度は、就学前施設や高等部卒業後の就労先も教員代表が見学に行きました。キャリア教育を行うにあたり、広く知識を得るためです。コロナ禍が沈静化するともう少し多くの教員が見学できるようになるのではないかと期待しています。

I 令和4年度 教員施設見学会実施一覧

○就学前施設見学

- ① 8月1日(月) 乳幼児親子教室(江東区猿江)
- ② 8月5日(金) 江東区子ども発達扇橋センター (扇橋 CoCo)

○卒後施設見学

- ① 8月1日(月) 花王ピオニー株式会社 (特例子会社)
- ② 8月3日(水) レインボーハウス明石



- ・生活介護 (施設入所者のみ)
- ・就労継続支援 B 型(仕事内容: 受注作業)
- ・就労継続支援 A 型、就労移行支援(仕事内容: パン作り、喫茶)

- ③ 8月3日(水) 社会福祉法人 墨田さんさん会 (就労継続支援 B 型)

仕事内容: 軽作業、自主生産品の製造販売、公園清掃、
施設内清掃、食品トレーのリサイクル選別作業、
自主生産品の出張販売等

II 8月2日(火)

令和4年度夏季公開研修会②

「自閉症を楽しむ

～ハッピー・ヘルシー・エンパワードな支援～

講師 NPO法人東京自閉症協会役員/NPOリトルプロフェッサーズ副代表

綿貫 愛子 氏

この研修会は、「令和4年度 夏季公開研修②」として準備しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、校外からの受講者を会場に御案内し、ほとんどの本校教員は Microsoft teams によるライブ配信受講としました。

綿貫氏は、現在都立特別支援学校8校の外部専門員の他に、都立高等学校2校、区立小学校2校でスーパーバイズを務めており、さらにさまざまなところで講演をなさっています。今回は、発達の凸凹をポジティブにとらえて、支え、共に社会を形成するために押さえておきたい内容を伺いました。

前半はASDコミュニケーションと共同注意、感覚情報処理や自己刺激行動、文字の見え方についてなどの多岐にわたる知識を得ました。後半はそれらを踏まえたうえで、「diversity & Inclusion」を前提とした支援について考えていく内容を伺いました。



綿貫 愛子氏



講演会の様子(校外からの受講者)

Ⅲ 8月3日(水)

校内研修会

①「高等部の教育」と「進路指導と将来必要な力」

講師 都立江東特別支援学校 特別支援教育コーディネーター

②《実技指導》机拭き、自在ほうき

講師 都立江東特別支援学校 職能開発科清掃担当教諭

本校の中学部3年生のほとんどが、都立江東特別支援学校に進学しています。この研修会では、高等部の授業（カリキュラムや作業学習）や進路指導についてたくさんの情報を得ました。

挨拶・報告ができること。自分の役割をきちんと果たすこと。適切にコミュニケーションが取れること。情動を安定できることなど小・中学部の9年間にその土台作りが期待されています。

実技指導では、水で濡らした後の絞り方、机の機能的かつ理にかなった拭き方（濡れタオルで拭いた後は、乾拭きすると水滴跡が残らない）、箒の動かし方等を教わりました。実際にやってみることで理解が進むことを実感しました。



①「高等部の教育」



②《実技指導》自在ほうき

IV 校内選択研修会

① 8月4日(木)「カード教材作成」

② 8月24、25日(木、金)「木工教材作成」

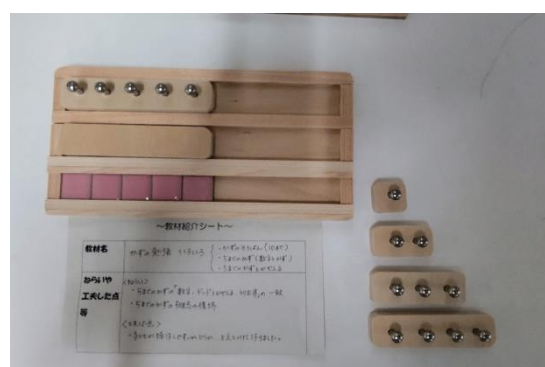
①は、本校の外部専門員である富岡康一氏を講師に迎えた選択研修です。当日は「発達段階に応じた、カード教材（マッチング課題等）を用いた指導の仕方」について、具体的に教わりながらそれぞれがカード教材等を作成しました。

②は、本校の外部専門員である小竹明子氏を講師に迎えた選択研修です。今年度も、手指を使い、具体的操作を伴う教材を作りました。

ご存じのように、手は「第2の脳」と言われます。手は身体においては狭範囲ですが、脳だと手に関する面積は広範囲に渡っているからです（ペンフィールドの脳マップが有名）。つまり、手を使うと脳の広範囲を刺激し、活性化できるということです。本校の子供達は、抽象的思考よりも具体的操作をして学ぶ方が得意です。カードマッチング教材も、木工教材も、手で具体的操作し、見比べ、繰り返し学んでいく教材です。新学期の授業が、楽しみです。



カード教材例 2切片パズル



木工教材例 1～5までの数



鋏を指す穴を機械であける（穴あけボール盤）



板や角材を切る（糸のこぎり）

V 8月24日(水)

校内研修会 「防災訓練および研修会」(都立大塚ろう学校城東分教室と合同)

VR体験協力 東京消防庁城東消防署

講演会講師 江東区総務部危機管理室防災課 ^{にい}新居 賢児 氏

《 第1部 VR防災体験(地震) 》

最新のバーチャルリアリティ技術を活用した“臨場感あふれる防災訓練”ができる専用の大型車両を昨年度に続き、今年度も訓練にお願いしました。360°の立体映像と座席の揺れ・風圧・主人公の視野などの演出で、今回「ダイニングルームで大地震」を疑似体験でした。普段、当たり前のようにおいてある頭上の荷物は落ちてくる。固定していない棚は倒れてくる。周りに合った陶器やガラス製品が床に落ちて割れ、床をはだしでは歩くのは危険。ドアが歪んで開かなくなる。という状況でした。今回の映像を見た後、教室の安全対策をさらに心がけることを再確認しました。

《 第2部 引き渡し訓練及び避難所設営訓練 》

被災時の教職員の動き方の確認を主目的としました。園児・児童・生徒を引き渡し、校内の災害対策本部と両校との連携確認も行いました。

引き渡し訓練後は、①情報・連絡班 ②施設・捜索班 ③食料・物資班 ④応急・救護班 ⑤避難所支援班に分かれて、それぞれが避難所設営訓練を行いました。

《 第3部 防災教育講演会 「江東区の災害と防災対策について」 》

現在、想定されている東海地震は、東京で震度5強。首都直下型地震は震度6強と言われています。さらに、最近の気象情報も油断なりません。大雨による浸水や荒川が氾濫する可能性もあります。この講演会では、「災害に対する心構え」として「自助7：共助：2：公助1」。特に発災後72時間は公助が空白・手薄であり、近所や災害協力隊の力の大きさを教わりました。

自助として①災害情報収集手段の確保②家庭・職場における備蓄③家庭・職場内の安全確保等があります。東京都や江東区と協力してさらに整えていきます。



VR用ゴーグルをつけて地震体験中



避難所設営訓練(プール水濾過)